



建設工事，解体工事等を実施される皆様へ

溶断・溶接作業現場での出火防止を!!

令和2年4月29日，韓国の新築工事中であった倉庫において，完成間近に溶接火花による火災が発生し，38人が死亡，10人が負傷しました。

国内でも，平成30年7月に東京都多摩市の新築工事中の事務所ビルで，溶断作業中に発生した火花が断熱材等に着火し，燃焼拡大しました。この火災で，5人が死亡，42人が負傷しています。

このような火災を防ぐために，裏面の防火管理チェックリストを活用し，火災予防に万全を期してください。



京都市内での火災事例

火災事例

1

屋内で鉄骨の溶断作業を行っていたところ，飛散した火花が，床面にあった油が染み込んだ布や紙類に着火，同建物約270㎡，隣接建物2棟約60㎡の合計約330㎡が焼失

火災事例

2

解体工事中の建物の屋上においてベランダの鉄製物干台を溶断していたところ，火花が階下の木くず等に着火，作業員の撤収後に燃焼拡大し，同建物約1,500㎡が焼失

火災事例

3

工事中の建物内で，壁面付近の溶接作業の火花が作業員の足元の段ボールに着火，作業員の着衣に燃焼拡大し，作業員が死亡

知ってるっ？

溶断・溶接火花の危険性

京都市消防局公式キャラクター
二条 葵



- Q 溶断や溶接の火花はどれくらい飛ぶの？
A 切断用酸素の圧力や作業場所の高さにもよりますが，火花の飛散距離は5m～10mにも及びます。
- Q 火花の温度は？
A 1,200～1,700度に達します。飛散した火花が可燃物に落下し，無炎燃焼を続け，作業終了後の無人の作業場等で出火する火災が発生しています。

問合せ 京都市消防局 予防部 予防課
Tel.075-212-6672

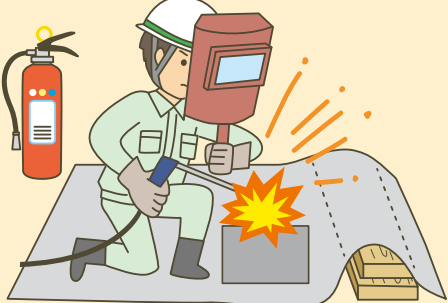


京都市消防局
KYOTO CITY FIRE DEPARTMENT

発行：京都市消防局予防部予防課
京都市印刷物第020011号

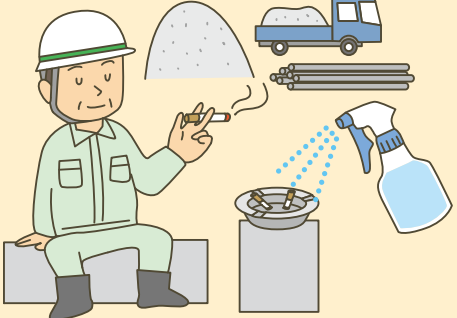
工事現場での主な出火原因と防火対策

工事現場では、溶断や溶接作業による火花の飛散のほか、作業員のたばこの不始末や夜間の放火などにより火災が発生していますので、次の防火対策を行いましょう。



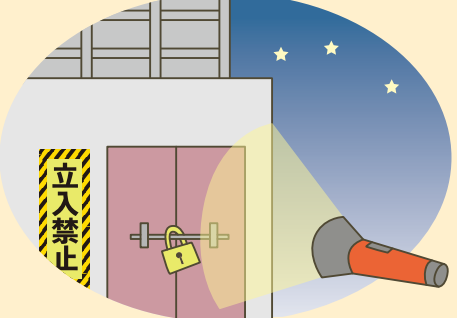
溶断・溶接

- 周囲をスパッタシート（不燃性シート）で遮へい
- 可燃物や危険物の除去
- 消火器等の消火準備



たばこ

- 喫煙は必ず決められた場所で行う。
- 灰皿を使用し、吸い殻は、霧吹きで水を掛けるなどして、確実に消す。



放火

- 資器材等の整理整頓
- 定期的な巡回と出入者のチェック
- 夜間等の作業時間外の出入口の施錠

工事中の防火管理チェックリスト

工事責任者、各セクションのリーダー等を中心に出火防止を徹底してください。

全 般	□ 出火防止の教育、通報要領の確認及び初期消火訓練の実施 □ 危険物を使用する場合は、持ち込む量は最小限にし、作業終了後は必ず持ち帰り □ 消火器、水バケツの準備、既設の消防設備の機能確保
作業前	□ 防火管理者と施工責任者を中心に、作業員全員で、工程や防火の注意点を確認 □ 喫煙場所、火災発生時の通報体制、避難経路を全員が把握 □ 消火器、水バケツの配置、消火栓BOX等の位置と使用方法を全員が把握
溶断・溶接 作業中	□ 溶断、溶接等の火花が出る作業における周囲の可燃物及び危険物の除去の徹底 □ スパッタシート（不燃性シート）の使用の徹底（特に断熱材が近くにある場合は注意）
作業終了後	□ 防火管理者等により、工事終了から一定時間経過後に最終の安全確認 □ 防火戸、防火シャッターの閉鎖 □ 作業時間外の出入口の施錠

工事中の防火対策に関するお問合せは各消防署へ

北 消 防 署 491-4148	中京消防署 841-6333	下京消防署 361-4411	西 京 消 防 署 392-6071
上京消防署 431-1371	東山消防署 541-0191	南 消 防 署 681-0711	伏 見 消 防 署 641-5355
左京消防署 723-0119	山科消防署 592-9755	右京消防署 871-0119	醍醐消防分署 571-0474



京都市消防局ホームページ
消防局からの防火・防災情報を御確認ください！

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

